

平成23年度プロポーザル業務実績

公募形式	総合評価落札方式	企画提案方式
業務名	平成23年度クマ・シカとの共存に向けた生息環境等整備モデル事業	平成23年度霧島屋久国立公園霧島地域におけるノカイドウ自生地保全対策検討業務
発注先	林野庁関東森林管理局	環境省九州地方環境事務所
事業目的 及び業務概要	<p>事業実施の目的</p> <p>我が国の森林は、人工林から原生的な天然林まで多様な構成となっており、多様な野生動植物が生息・生育する場となる等、生物多様性保全に重要な役割を担っている。一方で、近年の鳥獣による農林業被害の深刻化や人的被害が懸念されている。国有林、民有林にかかわらず、特に、クマ・シカの剥皮による植林木の被害や林床植生の過剰な採餌により、森林の多面的機能の低下が懸念されている。</p> <p>このため、国有林におけるクマ・シカの被害状況や生息環境等の把握、試行的な被害防除試験地の設定・調査などを実施し、クマ・シカによる剥皮の要因解明、被害の軽減方策及び生息環境の保全対策などの検討を深め、クマ・シカとの共存を指向するモデル地域づくりに資することとする。</p>	<p>事業実施の目的</p> <p>霧島屋久国立公園霧島地域えびの高原に自生するノカイドウは、植生の遷移の進行による被陰、高密度で生息するニホンジカによる食害等の影響を受け、個体数の減少や樹勢の衰えを引き起こし、天然更新が望めない状況に置かれている。このためノカイドウの生育状況の実態調査、生育環境調査、自生地再生策等の検討を行い、被陰、生育地の土砂流出防止、シカ食害対策などの継続的な実施と生態的解明と併せて実験地設置等による生育適地の解明、更には自生地再生の議論が進められた。本事業ではこれらの議論を踏まえ、ノカイドウの生態的解明を進め、生育適地の抽出と自生地再生のための実験地等の検討を行い、えびの高原におけるノカイドウを主体とした植生の保全・再生策を検討することを目的とする。</p>
	<p>事業の概要(平成22年度)</p> <p>主としてツキノワグマによるスギ・ヒノキ等への剥皮被害の実態調査や防除資材の効果調査、自動撮影カメラ・ビデオによる生態調査等を実施した。3ヶ年分のデータを用いて重回帰分析を行い、ツキノワグマの剥皮行動の要因把握に努めた。調査の実施及び取りまとめにあたっては、学識経験者、行政機関、猟友会、森林組合等による検討委員会を運営した。</p>	<p>事業の概要</p> <p>ノカイドウの生育環境について被陰状況、土壌水分状況、河川流量・勾配、窪地などの地形状況等の現地調査を行った。また、ノカイドウの生育適地について検討し、保全対策について取りまとめた。</p>
契約金額	13,408,500円(消費税及び地方消費税を含む)	3,497,155円(消費税及び地方消費税を含む)
担当技術者	山崎 直 資格一バイオープ施工管理士2級	澤 純一 資格一技術士 建設部門(建設環境)・森林部門(森林環境)
管理技術者	澤 純一 資格一技術士 建設部門(建設環境)・森林部門(森林環境)	渡邊 健 資格一技術士 環境部門(自然環境保全)
委員会・委員氏名	<p>小金澤 正昭氏 (宇都宮大学農学部附属演習林 林長)</p> <p>大久保 達弘氏 (宇都宮大学農学部森林科学科 教授)</p> <p>岡 輝樹氏 (独)森林総合研究所野生動物研究領域 野生動物管理担当チーム長)</p> <p>相馬 司氏 (社)栃木県猟友会那須北支部 顧問)</p> <p>高松 健比古氏 (栃木県自然保護団体連絡協議会 代表)</p> <p>江連 比出市氏 (たかはら森林組合 代表理事組合長)</p> <p>菅沼 清氏 (大間々林業協同組合 理事長)</p>	<p>中尾 登志雄氏 (宮崎大学農学部森林緑地科学科 教授)</p> <p>南谷 忠志氏 (宮崎植物研究会 会長)</p> <p>河野 耕三氏 (綾町役場企画財政課 照葉樹林文化推進専門監)</p> <p>井村 隆介氏 (鹿児島大学大学院理工学研究科 准教授)</p>